

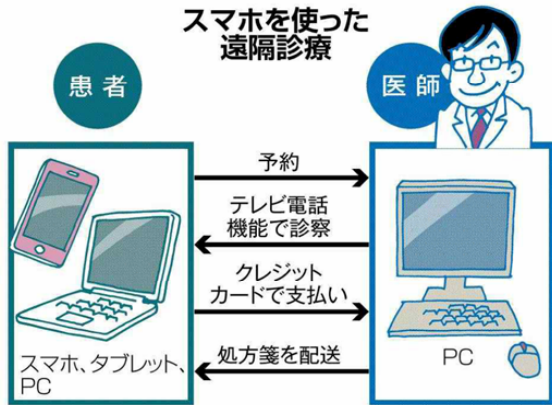


年 組 名前

道新でワークシート

稚内の小児科医院

ネット使い遠隔診療



遠隔診療システムの最大手、メドレー（東京）のサービスを1月に導入した。遠隔診療は2015年、厚生労働省が遠隔診療の推進に関する通知を出したのを機に、首都圏や関西圏などで拡大。同社のシステムはスマホなどがあれば特別な機器は必要なく、全国で250以上、道内は「はぐ」を含む4つの医療機関で導入されている。

対象は、アトピー性皮膚炎やぜんそくなどで症状が

離島患者の負担軽減へ

伊坂院長は「あくまで対面診療が基本。患者と相談しながら対応を決めていきたい」と説明。遠隔診療について「道内では認知度が低く、まずは知ってもらうことが重要だ」と話す。

医療・育児相談にも同システムを使って応じており、初診から利用できる。

伊坂院長によると、同医院には市内だけでなく、利尻島や礼文島、中川町、枝幸町などからも患者が訪れる。

診察代のほか、予約料として千円〜2500円かかり、ネット上でクレジット決済により支払う。

伊坂院長によると、処方箋は自宅などに配送され、近所の薬局で薬を受け取れる。

落ち着いている患者。初診時は医師と対面で診察を受け、2回目以降はスマホの専用アプリかパソコンで診察時間を予約し、スマホのテレビ電話機能を使って自宅などで診察を受ける。

【稚内】市内富岡地区の小児科・内科医院「こどもクリニックはぐ」が、スマートフォンなどを使って患者を診察する「遠隔診療」のシステムを導入した。首都圏などでは導入が広がっているが、道内では珍しいという。同医院は離島など遠方から訪れる患者も多く、伊坂雅行院長(50)は「通院の手間を省き、患者の負担を軽減したい」と話す。

(広田まさの)

2017年2月24日朝刊留萌・宗谷版（記事は再編集しています）

①稚内の小児科医院で行っている「遠隔診療」の良さは、何でしょうか。

②情報ネットワークは「遠隔診療」の他に、今後私たちの生活のどのような場面で役立つと考えられますか。